

平成26年度予算特別委員会審査から

市民文化会館平成28年度休館か

疑問の残る改修基本計画のない  
設計費1億3千779万円計上

今年度の一般会計予算は、10年ぶりに600億円を超え、602億6千万円となりました。

予算額が大きいものは、新たなクリーンセンター建設、公園、道路整備などの事業ですが、これら都市基盤を再整備する事業は予定されていたものです。委員会審査で初めて問題が明らかになったのは、市の文化芸術活動の中核施設である市民文化会館の改修についてです。

問題は、改修設計費1億3千779万円が計上されているにもかかわらず、設計の元となる改修基本計画がまとまっていない点でした。基本計画を示さないまま、設計予算を計上するのは本末転倒です。検討中の4つの改修案が説明されましたが、工事費用は最小で28億8千万円から最大で56億5千万円と、大きな開きがあるものでした。どこを何のためにどのように改修するのか、その必要性も含めて基本計画が定まらなければ、具体的な設計に至りません。

さらに、平成28年度を休館とするスケジュールが示され、大規模改修のためとはいえ、まる一年使用できないとなれば、学校関係を含め例年

予定されている行事も数多く、市民文化活動に大きな影響が出ます。

委員会最終日、市長から、議会の意見を踏まえ改修原案を確定し報告する、議会との一連の調整が終わるまで基本設計の事務手続きは行わないとの発言がありました。しかし本来なら、予算案を組み替え、改修の必要性と費用を精査した上で基本計画を定め、あらためて提案するべきです。

建設から30年が経過し、耐震化、バリアフリー化は必要としても、一部機能の見直しについては、市全体の公共施設の再配置計画と深く関わるため、多角的な議論が必要です。

議会では、4月末に施設の現状を見学し、5月27日の全員協議会の場で、基本計画案に関する説明と質疑が行われる予定です。



写真は、大ホールへの階段から見たエントランス。シャンデリアを含む天井の非構造部材の耐震化は、安全性の観点から必須項目

総務委員会陳情審査から

武蔵野中央公園北ホールの今後

市民要望と利用実態を踏まえ

公共施設の適切なあり方を

昨秋、\*武蔵野中央公園北ホールについて、市が閉鎖も視野に入れ検討していることがわかりました。利用者・市民が存続を求めて陳情を提出し、総務委員会で審査されました。

内山さとこは、施設の返還を求められていないなど、閉鎖に至る理由は無く、市民意見を聴いて、今後のあり方を検討するよう質しました。その後、市から今後のあり方について、利用が少ない会議室などを、障害児放課後対策事業に用途変更する案が示されました。市民からは、健康の維持増進のため利用の多いホールなどの、継続利用を求める意見が出ています。

市民福祉向上に寄与するため提供された北ホールは、健康の維持増進やコミュニティ活動の発展に価値ある施設です。今後、利用実態を踏まえ、新たな福祉ニーズへの対応も含め、市民に理解を得られる活用を求めていきます。

\*昭和61年、富士重工業の社宅建設の際、宅地開発指導要綱に基づき市民施設として無償提供され、平成2年から、八幡町ミニミニセンターの分館的機能となる。一昨年、新八幡町ミニミニセンター開館に伴い、ミニミニ施設から、当初の市民施設に位置づけが変更された。

視界不良の「子育て・介護の社会化」

保育需要の急増 間に合わない緊急対策

昨年5月、市の人口が初めて14万人を超え、子どもの数も増えました。主な要因は、桜堤地域の再開発などで新築マンションが増加し、子育て世帯の転入が増えたことです。

こうした中、今年度、認可保育所に入園申し込みをしたのは873人、そのうち、3月19日時点で入園不承諾となったのは485人、半数以上が認可外の施設を探さざるを得ませんでした。市は、新たに認可保育所2園、認証保育所3園の設置など、今年度中に300名以上定員を増やす予定ですが、保育の質の確保が課題です。

介護保険見直し 迫られる自治体の手腕

国は、来年夏から、介護予防事業を介護保険ではなく市町村の地域支援事業に移行する、利用料を一律で一割負担の原則から一定以上所得がある高齢者は二割負担に変更するなど、介護保険制度の見直しを行おうとしています。昨年12月の議会で、内山さとこは共同提案者とともに、国民的議論も事業の検証もないまま制度の根幹を改変しようとする国に対して、意見書をまとめました。これに全議員が一致して、拙速な制度改正を行わないよう求める意見書を提出しました。

制度の理念を顧みない改変に際し、地域の福祉資源の活用と自治体の力量が問われる時です。

むさしのミニタウン 4月2日

ドイツ発祥のミニタウンは子どものまち。子どもたち自身が企画・運営する中で、社会のしくみや、自分の役割について考え、自立心、市民性が養われると、期待されています。(けやきコミュニティセンター)



NO NUKES DAY 3月9日

大震災と原発事故から3年、脱原発に向け新たな誓い。左から、音楽家・坂本龍一、映画監督・船橋淳、城南信金理事長・吉原毅、環境活動家・飯田哲也の各氏。(日比谷野外音楽堂)



スクラムあらかわ見学 2月25日

「山彦の会」主催の見学会に参加。荒川区の障害者地域生活支援事業と、共同生活介護＝ケアホームが一体となり、社会福祉法人が運営しています。トワイライトサービス、緊急一時入所も可能な、先進的な取り組みです。



都市計画審議会視察 1月30、31日

昨年6月、都市計画審議会委員となり(任期2年)、都市計画法に基づく高さの最高限度の導入の審議など行う。新潟市の都市計画と景観まちづくり、公共交通政策などを視察。移築された旧第四銀行住吉町支店ロビーにて



外環道路特別委員会視察 1月14日

東京湾アクアラインと首都高速品川線の、シールド工法によるトンネル内を視察。終了後、外環委員は国土交通省担当者と懇談会を実施した。(視察は全議員対象)



海ほたる上にそびえ立つ、実物大14.14メートルのシールドカッターモニュメント前で